

## セミナー報告

令和2年度 男女共同参画セミナー②

### 「DV被害者への理解と支援」



令和2年11月14日(土) 10時~12時

講師 石本 宗子 (社会福祉士)

#### 【講師プロフィール】

**経歴** 1989年から10年間県女性相談所で相談支援業務に従事、元久留米市男女平等推進センター相談コーディネーター  
**主な活動分野** DV問題、セクシュアル・ハラスメントをはじめとする性暴力問題、性的搾取問題等女性に対する暴力被害者支援全般、女性福祉

**民間団体での支援活動** 1989年~現在/DVをはじめとするさまざまな暴力の被害女性の支援活動を行う。ぐるうぶ;NO!セクシュアル・ハラスメントによるセクシュアル・ハラスメント等女性に対する暴力の被害女性への支援活動から始まり、近年は、デートDV啓発プログラムの研究・開発、中学校等への出前講座を実施。また、2002年からは、久留米市を拠点とする民間団体に所属してDVをはじめとする暴力被害を受けている女性への安全確保と自立に向けた支援活動に取り組んでいる。

#### 《セミナー概要》

DVとは、親密な関係にある男女間における身体的、精神的、性的、経済的、社会的暴力。さまざまな暴力は、相手を自分の思い通りに支配・管理するための手段である。

DVは、ジェンダーと暴力を容認する意識、家父長制(男性優位・男性中心の考え方・女性はケア・サポート役割、従属の立場)を背景に、日常生活の中に当たり前の普通のできごととして存在している。外からは分かりにくく、当事者自身も問題意識を持ちにくい。

DV被害者は、怪我をする、恐怖心を与えられる、自己肯定感が低下する、強い「恥」の意識を持つ、自尊感情が低下する、自由な行動ができない、社会から孤立する、従属を強いられる等の状態になる。

DV加害者の特徴として、年齢・学歴・職業・社会的地位も何ら関係なく「普通の人」。問題飲酒・薬物依存・暴力的な性格が原因であることは少ない。パートナーに対する執着心が強く、ジェンダーにより、パートナーは自分の要求を受け入れ、従属すべきものという考えが強い。自分の非を認めない。自己正当化し、相手に責任を転嫁する。暴力を容認する考えを持っている。

**「DVは、被害者が引き起こしている問題ではない。加害者が持つ「相手を自分の思い通りに支配管理しても許される」という価値観や考えによって起きている。そして、この意識を社会が支えていることが問題である。」**と、様々な事例を挙げながら、繰り返し強く語られた。

DV被害者支援については、「あなたが悪いのではありません」「DVは暴力、人権侵害ですよ」と伝え、被害者の言うことを信じ、気持ちを受けとめる。加害者との間に距離をとり、安心・安全な生活を取り戻せるように支援する。被害者本人の自己決定やペースを尊重し、被害者の訴えを軽視したり、二次被害(被害を受けた責任を被害者に向けて非難したり、被害者と向き合わない態度をとる等)を起こさない。守秘義務を忘れないこと。

また、DVがある家庭の子どもは、直接的な虐待や暴力を目撃したり、物音や声を聞いたり被害者の負傷の様子や起こった後の家の中の荒れた様子などを見るなど、心理的な影響(間接的な被害)は避けられない。そこで、一方が他方を支配する関係を学び、物事の解決方法として暴力を選ぶことを学ぶ。暴力の中で、不安や恐怖心を抱えているため、自分の感情や意思を抑え込み、子どもとしての発達、成長が阻まれている。

最後に、「**女性も子どもも、安全に安心して生きる権利がある。DVの本質は、支配・コントロール。そこに対等な関係はない。虐待の背景にDVあり。DV被害者である親と虐待の被害を受けている子どもそれぞれへの支援が必要である。」**と締めくくられた。

《受講生の感想》※抜粋

- ・ジェンダーによる DV と意識してない DV が存在すると知った。自分の長い人生の中でも美德とされてきたこと、愛する事と間違えて尽くすことが DV とつながっているのだと知った。DV での子どもへの被害が一番心配。
- ・家族意識とジェンダーがもとになっているということで、社会が変わっていくことが重要だと思った。
- ・知らない現状を聞く事ができた。内容・話し方がとても分かりやすかった。
- ・DV とは自分が思っていた事と全くちがっていた事におどろいた。
- ・DV 加害者の特徴「普通の人」なんだという事。家庭の日常生活、何げない生活の中に DV がひそんでいる気がする。
- ・外面が良い人が加害者と聞いてその通りだと思った。
- ・DV は中学生で起こっている。1 人でも DV に対する認識ができれば良いと感じた。
- ・DV の現状を初めて聞いた。自分達のまわりにもこんな事がおきているのか不明である。本日聞いたことを心に止めて、気を付けてまわりをみてみようと思った
- ・具体的な話が聞けて、参考になった。もう少し長く聞きたい話だった。
- ・DV 被害者の支援のやり方が色々の方面に広がっていることを知る事ができた。淡々と話されていたが、とても重い内容だった。
- ・DV はもちろん、他の手続きもワンストップが必要と感じた。面前 DV、初めての言葉だった。
- ・女性から男性に対しての精神的 DV もある。法律的に男女平等にして欲しいと思う。男性から女性への DV だけではない事もまれにあると思う。
- ・子どもの気持ちを尊重し、気持ちに気付いてやることの大切さを思った。子どもの回りにいる大人の責任を感じた。
- ・子どもはみな宝物。1 人 1 人を大切に見守ってあげたい。
- ・DV が子どもの虐待と関連していることを知り、DV の根深さを思い知らされた。今まで色々な話を聴き、学んできたつもりだったが、現状の深刻さに驚きを覚え、自分の意識の低さを改めて反省した。これからでも私にできることをしっかり考え、できることから行動したいと思う。
- ・複雑で難しい DV や虐待について、とてもわかりやすく聞かせていただきありがとうございました。日頃の周囲の人たちとの関わりの中で、DV 被害をうけた女性のことや虐待の影響をうけた子どもたちのこと、どれだけ見落としてきたんだろうかとふり返ることができた。本日の石本先生の話をしっかり自分の中におとしこんで今からでも自分の日常の中で生かしていきたいと思った。加害者についての会場からの質問と回答をききながら、加害者にならないような学校現場での“教育”大切だと思った。